ベジフル SAGA （2024 年 12 月号）　～ 病害虫防除 ～

12 月は温州ミカン、中晩柑では収穫前の腐敗防止、落葉果樹は次年度に向けて病害虫の発生を減らす対策を行う時期です。収穫の終わった園では、この時期に本年の病害虫の発生状況をしっかり振り返り、次年度に活かしましょう。

露地カンキツ

●果実腐敗（緑かび病等）対策

果実腐敗を防ぐためには、「収穫前の薬剤散布」と「果皮を傷つけない」ことが重要です。

【収穫前の薬剤散布】

下記①～④に記載する薬剤や品種ごとの散布時期を参考に、薬液が霧状に出るディスクノズル（新広角二頭口ノズル等）を用いて、果実１つ１つを包み込むよう丁寧に薬剤散布を行ってください。

① 年内出荷の早生および普通温州

収穫７～10 日前に【トップジンM水和剤 2,000 倍またはベンレート水和剤 4,000 倍】と【ベフラン液剤 25 2,000 倍】の混用散布か、ベフトップジンフロアブル 1,500 倍を散布します。

② 施設中晩柑カンキツ類

収穫７～10 日前に【ベンレート水和剤 4,000 倍】と【ベフラン液剤 25　2,000 倍】の混用散布か、ベフトップジンフロアブル 1,500 倍を散布します。

③ 貯蔵して年明けに出荷する高糖系温州や中晩生カンキツ類

７～21 日前に【ベンレート水和剤 4,000 倍】と【ベフラン液剤 25　2,000 倍】の混用散布か、ベフトップジンフロアブル 1,500 倍を散布します。

④ 露地で袋掛けする品種

袋掛けする品種では、袋掛け直前に【ベンレート水和剤 4,000 倍】と【ベフラン液剤 25 2,000 倍】の混用散布か、ベフトップジンフロアブル 1,500 倍を散布してください。

【果皮を傷つけないこと】

果実腐敗を引き起こす病原菌は、果皮の傷口から感染するため、収穫・選果作業時は果実

をできるだけ丁寧に取り扱ってください。特に降雨や結露などで果実が濡れているときは果皮が傷つきやすいので収穫を避け、収穫開始前にコンテナ内の枝や小石等を取り除き、収穫した果実が傷つかないよう心がけます。また、収穫時には果実にハサミ傷をつけない、収穫中のコンテナ内に枯れ枝を入れない等を徹底して取り組んでください。

なお、貯蔵する際は、貯蔵前に腐敗しやすい浮皮の著しい果実や傷果は取り除き、貯蔵庫内の温湿度が急激に変化しないよう注意してください。加えて、貯蔵中はこまめに果実の状態を点検し、腐敗果を見つけたら早急に取り除きましょう。

●越冬害虫対策

近年、カイガラムシ、特にナシマルカイガラムシの発生、被害が非常に多いです。効果が非常に高い薬剤があった時代は、生育期の防除で抑えることが出来ていましたが、本剤がなくなった今、生育期に殺虫剤を複数回散布しても抑えることが難しい状況になりました。生育期は様々な発育ステージが存在して、薬剤の効果が表れにくいため、比較的発育ステージが揃っている冬～初夏に防除を徹底する必要があります。

冬季は97%マシン油乳剤 60倍を散布します。ご存知のとおり、本剤は虫体を覆うことで威力を発揮することから（図１）、ムラなく散布するようにします。そのためには、①晴天で無風な日・時間帯に行う、②様々な方向から散布する、③薬液が樹冠内部に到達する等の丁寧な散布を心掛けます。

ただし、厳冬期の散布は落葉を助長させるので、散布時期は12月～１月上旬までとして寒波が来ると予想される場合は避けます。この時期を逸した場合は剪定後の３月に必ず実施します。また、樹勢が低下しているから散布を控えるという事例もありますが、そもそも樹勢が低下している樹体で高品質ミカンの生産は困難なので、この時期のマシン油乳剤の散布を控えるとともに、堆肥の施用等の土づくりで樹勢の強化に努め、本剤の３月以降の散布に備えるようにしてください。

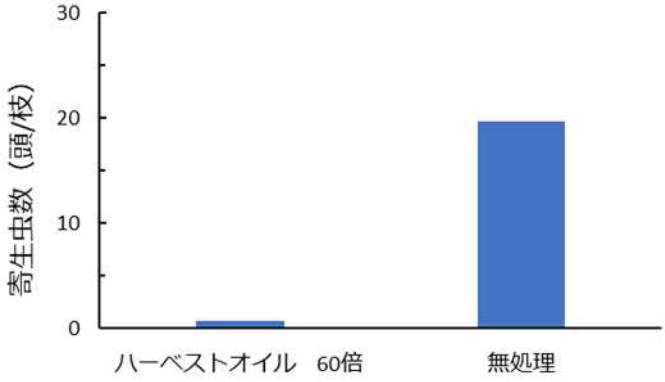

図１　ナシマルカイガラムシ越冬世代幼虫に対するマシン油乳剤の防除効果（果樹試験場）
※　薬剤散布日：2022 年 12 月 21 日、調査日：2023 年 3 月 16 日

落葉果樹全般

●落葉処理

ナシの黒星病、炭そ病、ブドウのべと病や褐斑病等は、落葉に残った病原菌が翌年の重要な伝染源となります。特に本年、これらの病害が問題となった園では、落葉を集めて園外へ持ち出すなど適切に処分して次年度の菌密度低減に努めてください。落葉処理の方法としては、細い溝を掘って風で溝に集め園外で処分する方法や、腐熟しやすいよう乗用草刈機等で粉砕する方法などがあります。樹の周囲や園の隅は落葉が残りやすいので、これらの場所はよく確認し、丁寧に取り除くようにしましょう。

●越冬病害虫対策

モモ、スモモ等でカイガラムシ類の発生が多い園では、１２月上旬にマシン油乳剤 97％ 50 倍を散布します。虫体に薬剤がむらなくかかるよう、風のない日に四方から枝幹に丁寧に散布しましょう。

ただし、樹勢が低下している樹への散布は控え、生育期に殺虫剤で防除を行ってください。

ナシ

●白紋羽病対策

発病樹とその周辺の未発病樹に対し、フロンサイドＳＣを、500 倍（発病樹）または 1000 倍（未発病樹）で潅注処理します。処理量は１樹あたり 100ℓ を目安とし、ムラなくたっぷり処理しましょう。本処理の効果は２年程度持続しますが、定期的に根部を掘り起こして発病の有無を確かめ、再発していれば再処理してください。

苗木の植え付け時には、フロンサイドＳＣ　500 倍液を 50ℓ/樹、植え付けた苗の周囲（半

径５０cm程度）に潅注処理しましょう。特に、白紋羽病の影響で植え替えをする場合は、土壌の入れ替えと植え付け後の薬剤潅注処理を必ず行いましょう。

キウイフルーツ

●かいよう病

冬季は、かいよう病の重要な防除時期です。収穫後から発芽前まで、１カ月間隔でICボルドー66D 50倍等で防除を行ってください。本病原菌は、収穫、落葉、剪定等の傷口等から感染するため、収穫後、落葉後、剪定の前後にも防除を徹底しましょう。

また、管理作業による感染を防ぐため、剪定等の作業は健全園、健全樹から行い、剪定等による傷口には必ずトップジンＭペーストを塗布し、傷口からの感染を防ぎます。使用した器具や手などは消毒液でこまめに消毒しましょう。

〇最後に

冬季は越冬病害虫に対する防除の時期に加えて、次年度の生産に向けて準備する時期でもあります。病害虫防除に限らず、振り返りを行い、うまくいったことは継続し反省点は改善しましょう。また、近年、高温・乾燥など異常気象が常態化する中、樹勢が低下している樹が散見されます。先にも述べましたが、高品質生産には樹勢の維持が必要です。そのためにも、堆肥等を活用した土づくり、潅水設備を整備するなど、厳しい環境に対するフォロー行っていきましょう。